

(第6期) 滋賀県環境こだわり農業推進基本計画 各関連事業の取組状況について

重点施策1：地球環境問題に対応する生産性の高い環境こだわり農業の推進

R7年3月時点（速報値）

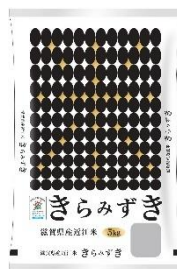
目標項目	現状値 (2020年度)	今年度実績 (2024年度)	目標値 (2026年度)
水稻新品種「きらみずき」作付面積 (水稻作付面積に占める割合)	-	192ha (0.7%)	1,000ha (3.3%)
化学肥料出荷量※1の削減率(2016 肥料年度比) ※1：県内への化学肥料出荷量（主要窒素肥料）	-	整理中	10%削減
化学合成農薬出荷量※2の削減率(2019 農薬年度比) ※2：県内への農耕地用農薬出荷量（成分換算）	-	R7.4～6 頃に 集計予定	5%削減
家畜ふん堆肥の耕種農家の年間施用面積 (耕地面積に占める割合)	8,000ha (15.6%)	R7.7 集計予定	8,600ha (16.8%)
カバークロップ取組面積(耕地面積に占める割合)	180ha (0.4%)	178ha (0.4%)	800ha (1.6%)
長期中干し実施面積 (水稻作付面積に占める割合)	11,014ha (36.6%)	10,377ha (36.5%)	12,000ha (39.9%)
秋耕実施面積 (水稻作付面積に占める割合)	18,100ha (60.1%)	16,083ha (56.6%)	19,100ha (63.5%)

(1) 生産性の向上と持続性の両立

①生産性の向上

◆「きらみずき」みんなでブランド化推進プロジェクト

R5年度から県域での栽培を開始した「きらみずき」について、栽培技術の確立や収量・品質の高位安定化を図るため、以下の取組を実施した。



環境こだわり米「きらみずき」



オーガニック米「きらみずき」

○収量・品質の確保に向けた栽培実証

- ・県内6地域に実証ほを設置し、生育状況や病害虫の発生状況および収量・品質等の調査を実施
実証ほの平均収量 520kg/10a(416～614kg/10a)、食味値の平均 77 (65～81)。
- ・生産者やほ場によるバラつきが大きく、次作では地力の高いほ場の選定や牛ふん堆肥等の連用による土づくりの実践に取り組み安定生産を図る。

○栽培技術等の確立

- ・農業技術振興センターにおいて、収量・品質確保に向けた栽培試験、病害抵抗性遺伝子系統の育種等を実施。
- ・水稻跡および大豆跡ほ場におけるオーガニック栽培体系での試験栽培を実施し、「オーガニックきらみずき」栽培暦の作成に活用した。また、いもち病等の病害抵抗性遺伝子系統の育種につ

いて継続して試験を実施。

○近江米「きらみずき」生産拡大支援事業

- ・「きらみずき」を栽培する農業者や販売店から「きらみずき」への期待を講演いただき、品種特性に応じた栽培管理の徹底を図るとともに、今後の作付け拡大を目指した「きらみずき」推進フォーラムを開催（R6年8月7日）。
- ・収量・品質の高位安定化を図るため、栽培記録の回収や玄米サンプルの分析を実施(215点) 栽培記録に基づく単収 平均 435kg/10a(230～600kg/10a)。 理化学分析に基づく食味値 平均 80(68～90)。
- ・生産ほ場に設置する看板を作成・配布することで、周囲の農業者や消費者等に周知・PR。
- ・R7年産の作付拡大に向け、農業者への理解を促進し、栽培意欲の向上を図るため、推進説明会を開催（R6年11-12月：県内5地域7会場）。
- ・R7年産「きらみずき」栽培予定者を対象とした栽培研修会を開催（R7年2月：県内2地域）。

○みんなでブランド化推進事業

- ・「きらみずき」のブランド化を図るため農業者団体等が実施する収量・品質向上のための実証栽培や販路拡大に向けた活動等を支援（4件：うち1件はオーガニック生産者組織）。

《オーガニック生産者組織の取組例》

- ・「オーガニックきらみずき」栽培ほ場における現地検討会の開催
- ・販路拡大に向けた首都圏・海外等での市場調査や販売戦略等の策定
- ・ブランド化に向けた販売デザインの検討

○オーガニック「きらみずき」栽培支援事業

- ・効率的な除草作業や低コスト安定生産技術体系を実現させ、個人または組織においてまとまった面積（4～5 ha）でオーガニック「きらみずき」を生産できるように、乗用型水田除草機の導入に係る費用の一部を助成（1件）。



農業者等との生育状況の確認



関係団体等とのほ場巡回



推進フォーラムの様子

◆しがのスマート農業技術実装支援強化事業

○環境モニタリングデータの活用

- ・生産者と普及組織がクラウド上にアップロードされた温度、湿度、二酸化炭素濃度といったデータをリアルタイムに情報共有できるよう、対象となる生産者ハウスに通信機能のある環境モニタリングセンサーを設置し、栽培管理指導を実施。

○リモートセンシングデータの活用

- ・農地の地力や作物の生育状況を分析できる衛星等を活用したリモートセンシングシステムの試験導入を支援（県内74経営体）。
- ・収集されたデータを普及組織とリアルタイムで情報共有し、分析結果の活用方法や検討結果に基づく栽培改善技術を検討。リモートセンシングシステムで作成された地力マップをもとに可変施肥を実施することで均一な生育に有効であることを実証。

◆作業負担や環境負荷の低減等を図るためスマート農業技術等を推進

湖東農業農村振興事務所において、「濁水を出さない農業技術の実演会」を開催。実演会では、農業濁水防止のための浅水代かきと田植え作業のポイント等を説明することに加え、適切な水位での管理を可能とする自動給水栓を紹介し、普及拡大を図った。また、濁水の現状と漁業への影響を周知し意識啓発を図った。

②持続性の向上

◆被膜殻にプラスチックを使用しない緩効性肥料の取組を推進

○農業系廃プラスチック対策推進事業

プラスチックを使用しない緩効性肥料（ウレアホルムを主体とし、微生物分解により肥料成分が溶出）について、水稻の環境こだわり栽培における現地実証ほにより、その適用性を検証し、「みずかがみ」において、プラ肥料に代替可能なことを確認。

◆環境こだわり農業支援事業

○環境保全型農業直接支払交付金

国の日本型直接支払制度に基づき、農業者団体等が環境こだわり農業を実施した上で、さらに地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い営農活動に取り組む場合に、取組面積に応じて、国・市町とともに一定の負担割合で支援。

区分	R6 見込み値	R5 実績値
実施件数	425 件	424 件
実施面積	12,359ha	12,403 ha
うち 長期中干し取組面積	10,377 ha	10,633 ha
うち 殺虫殺菌剤・化学肥料を使用しない栽培	193ha	134 ha
交付額	537,179 千円	533,217 千円

《実施面積の推移》

R2 年度から第2期対策が開始されている。水稻の作付面積減少等に伴って、取組面積は減少している（図1）。

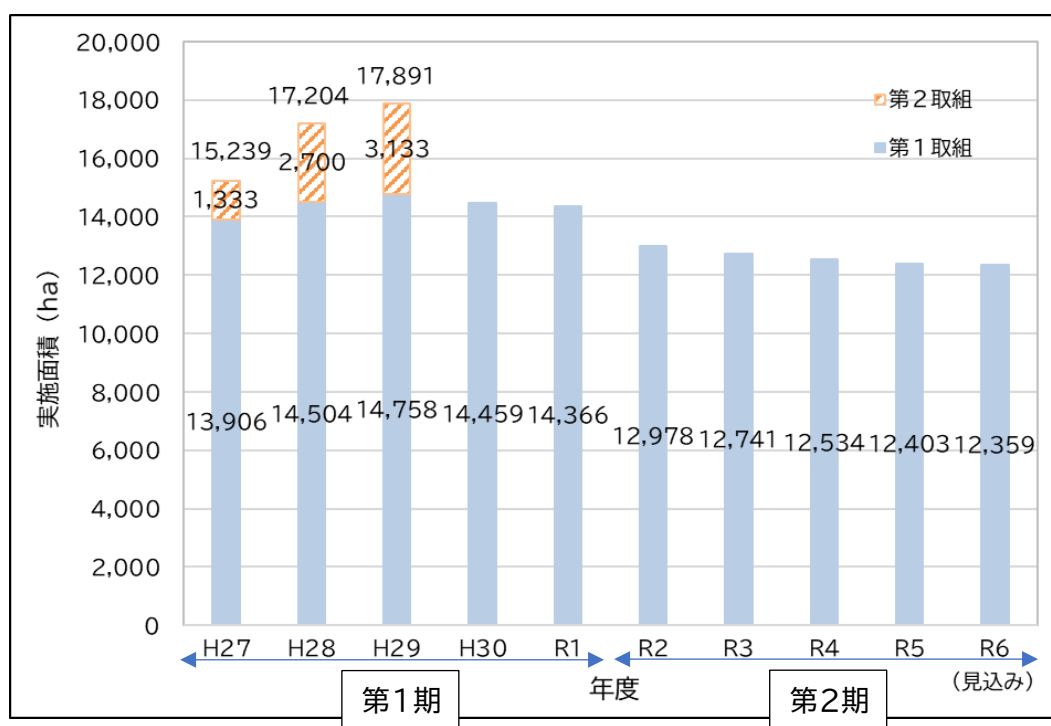


図1 滋賀県の環直交付金に係る実施面積の推移

《支援対象取組別の面積》

取組面積のうち、最も多いのは「IPMの実践、畦畔の手除草および長期中干し（5,464ha）」。次いで、「緩効性肥料の利用および長期中干し（4,842 ha）」となっており、これらの取組で約83%を占める（図2）。

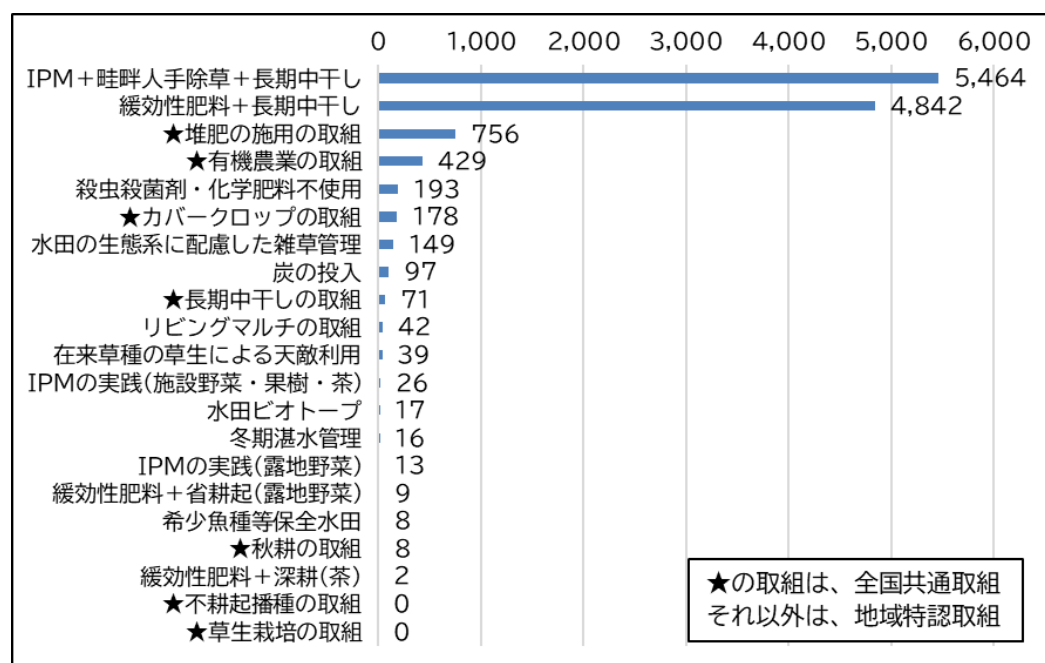


図2 令和6年度各取組の実施面積（見込み）（単位：ha）

重点施策2：環境こだわり農業の柱としてオーガニック農業を位置づけ本格的に拡大

R7年3月時点（速報値）

目標項目	現状値 (2021年度)	今年度実績 (2024年度)	目標値 (2026年度)
オーガニック農業実施面積 (耕地面積に占める割合)	355ha (0.7%)	429ha (0.9%)	500ha (1.0%)
うち米取組面積 (水稻作付面積に占める割合)	269ha (1.2%)	314ha (1.1%)	400ha (1.3%)
うち茶取組面積 (販売用茶園面積に占める割合)	12ha (4.0%)	11ha (4.4%)	15ha (5.0%)
新たにオーガニック野菜に取り組む生産者数	17人	24名	25人

(1) オーガニック農業の拡大

①オーガニック農業の推進

◆オーガニック農業等産地育成事業

○有機農業産地づくり交付金

オーガニック農業の生産から消費まで一貫して推進するモデル的地区（オーガニックビレッジ）の創出に向け、市町との取組を支援。

（令和6年度：新規2地区、令和7年度：新規1地区、継続2地区（見込み））

- ・R6年度取組内容：住民の意識形成や意識調査、オーガニック農産物等のPR活動、オーガニック米の学校給食の導入（5校4園、約16,500食、品種：「みずかがみ」、「コシヒカリ」、「きらみずき」、期間：令和6年10月1日～令和7年9月30日）、地域ぐるみで有機農業等の環境負荷低減に取り組む地域である「特定区域」を新たに設定（滋賀県みどりの食料システム基本計画：令和7年3月24日改定）等。
- ・オーガニック米の学校給食導入時に使用する食育用資料を市町へ提供



食育用資料（左（表）：小学5年生向け、右（裏）：保護者向け）

② 水稻の推進

◆「きらみずき」みんなでブランド化推進プロジェクト【重点施策1（1）①に記載のため省略】

③ 茶の推進

◆健康志向に対応したオーガニック茶産地育成事業

リーフ茶の需要減少による国内市場の縮小と産地間競争の激化に対して「近江の茶」が勝ち残るため、カフェインレス等の健康機能性を持たせたオーガニック茶の開発と産地の取組を支援した。

○健康志向に対応したカフェインレス茶製造技術の開発

- ・栽培技術：品種や茶期（収穫時期）等によるカフェイン含量の少ない茶葉原料の検討
- ・製造技術：蒸熱方法や蒸熱後洗浄によるカフェイン除去技術の検討

○健康志向に対応したオーガニック茶産地の育成支援

＜＜オーガニック茶産地体制の構築（甲賀地域）＞＞

茶業会議所が主体となり、生産から流通までを対象に、以下の取組を実施。

- ・カフェインレス茶の試験製造、消費者アンケート
- ・カフェインレスオーガニック茶の品質評価（味覚分析等）

＜＜特色あるオーガニック茶産地の整備（東近江市政所地域）＞＞

東近江農産普及課が主体となり、生産者を対象に、以下の取組を実施。

- ・カフェインレス茶の品質評価、消費者アンケート
- ・特色ある茶生産に向けた産地戦略の構築

（2）オーガニック農業を支える栽培技術の開発と普及

◆オーガニック農業等産地育成事業

○有機農業を進める人材育成

- ・有機農業指導員を育成し、現地指導体制を強化するため、オーガニック栽培技術や有機JAS制度に関する研修を実施。加えて、オーガニック「きらみずき」の作付拡大を推進するため、フォーラムを開催し、先進事例の共有や農業者間の意見交換等を実施。

研修名	開催日	受講人数
有機JAS指導員研修	R6年7月31日～8月1日	11名
オーガニック栽培技術研修 （緑肥の活用、水稻栽培技術）	R6年8月7日	10名
	R6年11月22日	40名
オーガニック近江米フォーラム	R7年1月15日	80名



有機JAS指導員研修会



有機栽培技術研修会
（緑肥の活用）



オーガニック近江米
フォーラム

○水田輪作体系におけるオーガニック栽培技術の検討

- ・ 水稻-麦-大豆等のブロックローテーション体系においてオーガニック栽培（有機JAS相当）に取り組めるよう、畑作物の栽培技術を検討。
- ・ 野菜について全国の研究状況や先進地、ならびに流通実態に関する調査を実施。

◆オーガニック野菜担い手確保・育成事業

オーガニック野菜の新規就農希望者や新たにオーガニック栽培部門を開始したい者に対して、座学や体験研修等を通じて、事業計画の構築、栽培技術の習得等について支援。（10名）

種類	実施期間等	具体的内容
座学	R6 年9月～R7 年2月（全6回）	先輩農家の体験談、植物生理概論、流通・販売事業者からの助言、事業計画作成実習とフィードバック等
体験研修	R6 年11月～R7 年2月（計7か所）	生産現場（県内2、京都府1、奈良県1、三重県2か所）および流通現場（京都府1か所）での作業体験



座学研修（湖東合同庁舎）



体験研修（県内外の先進農家等）

重点施策3：環境こだわり農業の強みを生かした流通・販売の強化

R7年3月時点（速報値）

目標項目	現状値 (2021 年度)	今年度実績 (2024 年度)	目標値 (2026 年度)
水稻新品種「きらみずき」作付面積 (水稻作付面積に占める割合)【再掲】	-	192ha (0.7%)	1,000ha (3.3%)
オーガニックビレッジ宣言数	1	3（見込み）	5
環境こだわり農産物等の専用コーナーを新たに設置 する店舗数（県内）	-	16	20

(1) 流通・販売面で取組強化

◆「きらみずき」みんなでブランド化推進プロジェクト

○新品種PR・流通促進

- ・ 近江米新品種「きらみずき」のPRのため以下の取組を実施した。
- ・ 県外量販店での試食・販売イベントを開催…R7年2月24日
- ・ テレビCM（180本）…R6年12月1日～R7年1月31日
- ・ ラジオCM（120本）…R6年12月1日～R7年1月31日
- ・ SNS投稿（135件）…R6年7月17日～
- ・ 商標登録（酒類）

等



イベントの様子

◆環境こだわり農産物等流通・販売強化事業

○環境こだわり農産物等認知度向上事業

「環境こだわり農産物」の認知度向上を図るため、「環境こだわり農産物」が使用されている旨を記載した商品ラベルや、販売促進のためのPR 資材の作成等に係る経費を支援。



環境こだわり農産物が
使用されている旨を記載した商品ラベル

販売促進イベントのためのチラシ

○産官学連携による消費者へのPR

- ・立命館大学食マネジメント学部、(株)平和堂、近畿農政局、および県が協働で、環境こだわり農産物をPR。
- ・令和6年8月下旬から9月上旬にかけて、県内13店舗にて、「下田なす」のPRを実施（レシピブック・POP設置、PR動画放映、試食提供）。
- ・11月上旬から12月中旬にかけて、「きらみずき」のPRを実施（県内全店舗にてレシピブック・POP設置、PR動画放映、県内7店舗にて試食会実施）。
- ・令和7年1月下旬から2月中旬にかけて、「にんじん」のPRを実施（レシピブック・POP設置、PR動画放映、試食提供）。



「下田なす」売り場の様子



「きらみずき」試食会の様子

○オーガニック近江米の販路開拓・PR

オーガニック近江米の販路開拓および販売促進のため、以下の取組を支援。

《支援メニュー》

- ・京阪神地域における商談会等への出展等の販路開拓
オーガニックライフスタイルEXPO……………R6年6月28日～29日
フードストアソリューションズフェア……………R6年9月4日～5日
- ・販売店舗におけるオーガニック近江米のPR（販促活動・販促用PR資材の作成、各種メディア等を活用した情報発信）
ここ滋賀「きらみずき」販売開始イベント……………R6年10月12日

フジテレビ めざましどようび放送……………R6 年 10 月 12 日



イベントの様子



展示会出展

◆健康志向に対応したオーガニック茶産地育成事業【重点施策 2（1）③に記載のため省略】

（2）消費者の理解促進

◆教育現場における環境こだわり農業の情報発信

○「環境こだわり農業」理解促進のための取組

「環境こだわり農業」の理解醸成を図るため、令和 5 年度に、主に小学生と消費者を対象とした啓発動画等を制作・作成し、県内の小学校教員が参加する「社会科研究部会」や、小学校での出前授業などで活用。

＜制作・作成物＞

小学生向け	・「環境こだわり農業」に関する学習用動画（テーマ別で 3 本） ・小学校教師が活用する指導者用資料 ※上記は学習指導要領に基づいた関連単元に準じて制作・作成。
消費者向け	・直売所や量販店等でデジタルサイネージ映像として活用できる動画（約 30 秒）



指導者用資料



「環境こだわり農業」PR 動画



「環境こだわり農業」PR 動画
量販店での上映の様子

◆世界農業遺産「琵琶湖システム」の主要な取組である「環境こだわり農業」を発信

「環境こだわり農業」を紹介した、小学生向けの学習教材を県ホームページに公開し、PR 動画を YouTube や Instagram 等の SNS で発信。

また、出前講座やイベント出展、「びわ湖魚グルメ」のパンフレットや守り手動画により、「琵琶湖システム」の魅力と価値を伝えるとともに、環境にやさしい農業の取組について啓発を実施。



学習教材



PR動画



びわ湖魚グルメパンフレット
(環境こだわり農業等の紹介)



世界農業遺産2周年記念イベント
(ゲリラ炊飯による「みずかがみ」「きらみずき」の提供)

◆魚のゆりかご水田魅力発信強化事業

○情報発信スキルアップ研修 (R6年12月18日)

- ・ 農業者や農業関係者を対象にした情報発信スキルアップ研修を実施。

○魚のゆりかご水田のネットワーク強化のための交流研究会 (R7年1月29日)

- ・ コウノトリを育むお米 (JA たじま) とグランドワーク西鬼怒 (宇都宮大学水谷名誉教授) の事例紹介の後、参加者も巻き込んだパネルディスカッションを実施。

○現地視察ツアー

- ・ 京阪神の米小売店等を対象に世界農業遺産琵琶湖システムの体験と高島市内の魚のゆりかご水田を視察。.....R7年2月5日

○京阪神地域でのPR活動 (R7年2月8~11日に京都府で実施)

- ・ 大型ショッピングモールにおいての啓発推進活動 (ジオラマ展示) や魚のゆりかご水田の試食とアンケート活動を実施。



魚道設置の協働活動
(野洲市須原にて)



交流研究会
(滋賀県土地改良団体
連合会)



京阪神地域でのPR活動
(イオンモール高の原)

◆琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語創造プロジェクト

○「魚のゆりかご水田」をはじめとして、生きもののくらしに配慮した「豊かな生きものを育む水田」の取組を一層拡大することを目的に、生態系保全に関する技術や情報の共有、新たに取り組まれる地域への技術指導を実施。

- ・彦根市薩摩町、高島市マキノ町大沼にて、魚道資材提供。
- ・高島市マキノ町大沼にて、農業者への技術支援。

○「豊かな生きものを育む水田」で生産される米の生産拡大、および販路拡大に向けた活動を実施。

- ・近鉄百貨店草津店 近江路「世界農業遺産フェア」R6 年 9 月 25 日～10 月 8 日
- ・滋賀県立大学「湖風祭」でのPR活動.....R6 年 11 月 5 日
- ・琵琶湖博物館「びわ博フェス」でのPR活動R6 年 11 月 16 日
- ・東京都港区にて「近江ゆかりの会」 R6 年 11 月 25 日



世界農業遺産フェア
(近鉄百貨店草津店にて)



滋賀県立大学
「湖風祭」



琵琶湖博物館
「びわ博フェス」

◆環境こだわり農業支援事業

○こだわり滋賀ネットワーク

滋賀の「農」と「食」に関して、会員が集い、ともに考え、行動することにより、地産地消の推進等、滋賀県農業の振興に寄与することを目的とした団体「こだわり滋賀ネットワーク」の活動において、以下の活動を実施し、環境こだわり農産物に対する消費者の理解促進を図った。

- ・広報誌やSNS等を活用して環境こだわり農産物に関する情報を発信。
- ・環境こだわり農産物を生産する現場を訪れ、環境こだわり農業の実態を学ぶ講座を開催 等。



広報誌「こだわり。」 vol.64
(R6 年 9 月発行)
特集で「きらみずき」を紹介



広報誌「こだわり。」 vol.65
(R7 年 2 月発行)
特集で「びわほなみ」を紹介



SNSでの情報発信の様子
(左：公式ブログ、右：公式
Instagram)

環境こだわり農産物「ぶどう」に
関する講座を実施

◆オーガニック農業等産地育成事業【重点施策2（1）①に記載のため省略】